第２章

市川三郷町の将来像

第２章　市川三郷町の将来像

1　将来像とまちづくりの基本理念・目標

「市川三郷町第２次総合計画」では、町の将来像を次のように掲げています。また、町民アンケート調査では、「福祉の充実と誰もが安心して暮らせる町」や「社会基盤が整い住みよい町」、「豊かな自然や観光資源を背景に町外から人が集まる町」が、理想とする町の将来像としてこの 10 年間ほぼ変わらずあげられています。

本計画では、総合計画の将来像や基本目標、アンケート調査結果における住民意向等を踏まえ、まちづくりの基本理念、まちづくりの目標を次のとおり設定しました。

■市川三郷町の将来像　　～「市川三郷町第２次総合計画」に掲げる町の将来像～

＜将来像＞

自然・歴史・文化を活かした「にぎわい」づくり
～子どもたちの未来へ伝統と安心をつなげて～

■まちづくりの基本理念・目標

＜まちづくりの基本理念＞

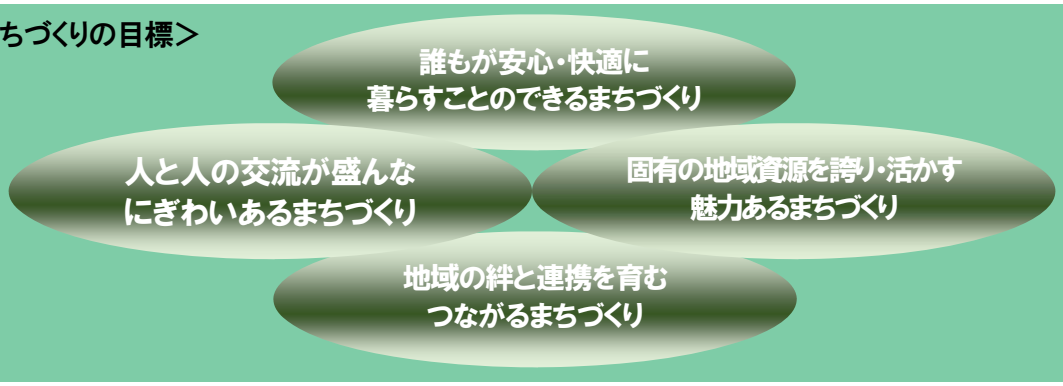
誰もが愛着と誇りを感じ、いつまでも住み続けられる
「交流とにぎわい」のあるまちづくりをめざします。

本町には、四季折々の自然が楽しめる四尾連湖や芦川渓谷、歌舞伎文化公園、ぼたん回廊や桜の名所、和紙、花火、印章などの地場産業、肥沃な大地「のっぷい」の農産物の恵み、夜景百選・日本夜景遺産に登録される温泉施設、「神明の花火大会」や市川の百祭りなど魅力あふれる資源が数多くあります。これらは永く町民の心の拠り所として慈しまれ、本町が誇れる大きな財産となっています。

長い歴史と営みの中で育まれてきたこれらの財産を守り、育み、次代を担う子どもたちに伝えていくことは今を生きる私たちにとっての大きな務めであると考えます。

本格的な人口減少と超少子高齢社会を迎え、「住んで良かった」「住み続けたい」と願う持続的な発展を見すえ、これら固有の財産を最大限に活かし、本町を知ってもらい、来てもらい、好きになってもらい、住んでもらう、ふるさとへの愛着と誇りを育む「交流とにぎわい」のあるまちづくりをめざします。

＜まちづくりの目標＞



本町は、「SDGs 未来都市」を目指しており、本計画のまちづくりの目標と SDGs の開発目標との関連は次のようになっています。また、分野別まちづくり方針についても、SDGs の開発目標との関連性を示していきます。

【関連する SDGs の開発目標】

目標１：誰もが安心・快適に暮らすことのできるまちづくり

生活基盤の整備とともに、子育て世代や若い世代の移住・定住の促進、本格的な超少子高齢社会に対応した福祉環境の充実、安心して住み続けることのできる災害に強いまちづくりなど、住民が将来にわたり安全で安心に暮らすことのできる地域社会を実現するまちづくりをめざします。

目標２：人と人の交流が盛んなにぎわいあるまちづくり

中部横断自動車道山梨～静岡間の全線開通や六郷 IC の設置、リニア中央新幹線の開業などの新たなインフラ整備を見すえ、企業誘致や広域観光との連携、地場産業や「市川三郷ブランド」を活かす産業の活性化、魅力資源や既存ストックを活用した交流拠点の整備等により、人と人との交流が盛んな、にぎわいを創出するまちづくりをめざします。

目標３：固有の地域資源を誇り・活かす魅力あるまちづくり

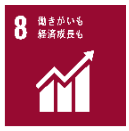
「甲斐の国の自然・歴史・文化」を受け継ぐ優れた地域資源の再認識と、長い年月培われてきた伝統技術や歴史文化を大切に継承し、次代を担う子どもたちが、市川三郷町を誇りに思いふるさとを慈しみ、町の魅力を発信することにより、町で暮らしたい、町に来てみたい、住んでみたいと思われるような、魅力あるまちづくりをめざします。

目標４：地域の絆と連携を育むつながるまちづくり

自立した持続的なまちづくりを展開していくためには、行政と住民がつながること（協働）や、本町と周辺市町村との連携など「つながるまちづくり」が重要です。長い時間をかけて育まれた地域の絆を礎に、補いあい連携しあいながら、交流人口や関係人口を広げ持続可能なまちを形成していく、つながるまちづくりをめざします。

〈参考〉まちづくりに関連する SDGs の開発目標と主要ターゲットの概要

―外務省資料より抜粋（17 の目標、169 のターゲットから）―

持続可能な開発目標（SDGs）の目標		主要ターゲットのキーワード
	目標2：［飢餓］ 飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養の改善を実現し、持続可能な農業を促進する	農業生産性・所得、食料生産システム、農業
	目標3：［保健］ あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する	精神保健・福祉、交通事故、保健サービス
	目標4：［教育］ すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する	教育、学習環境、技術的・職業的スキル、雇用
	目標6：［水・衛生］ すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する	飲料水、下水施設・衛生施設、水質改善、水に関する生態系
	目標7：［エネルギー］ すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的なエネルギーへのアクセスを確保する	エネルギーサービス、再生可能エネルギー
	目標8：［経済成長と雇用］ 包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する	経済成長率、経済生産性、雇用、観光業
	目標9：［インフラ、産業化、イノベーション］ 強靭（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る	インフラ開発、産業、研究開発
	目標 11：［持続可能な都市］ 包摂的で安全かつ強靭（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する	都市化、住宅、輸送システム、文化遺産・自然遺産、災害、環境、緑地・公共スペース、都市周辺部・農村部
	目標 12：［持続可能な消費と生産］ 持続可能な消費生産形態を確保する	消費と生産、天然資源、食品ロス、廃棄物、健康・環境
	目標 13：［気候変動］ 気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる	気候関連災害・自然災害、気候変動
	目標 15：［陸上資源］ 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する	山地生態系、森林、森林経営、生物多様性、動植物種
	目標 17：［実施手段］ 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する	政策、パートナーシップ、リーダーシップ

注）開発目標 11 は、ほぼ全ての施策に該当します。開発目標 17 は「第5章　計画の実現に向けて」に該当します。

2 まちの将来都市構造

(1)将来都市構造の方針

■基本的な考え方

本町の将来都市構造は、次のような考え方に基づき設定します。

豊かな自然と大地の構造を土台に、多様な拠点や地域、周辺都市が有機的にネットワークされたコンパクトで一体感のある都市構造の形成をめざします。

本町の土地利用からみた地域構造は、御坂山地と周辺丘陵地からなる森林･里山エリアと笛吹川や富士川からなる大地の構造を土台に、低地部を中心に市街地や田園エリアが帯状に形成されたコンパクトな構造となっており、本町の大きな特徴といえます。

将来の都市構造は、長い歴史と人々の営みの中で形づくられてきた現在の構造を損なうことがないよう、豊かな自然と大地の構造を土台に、周辺都市、3つの地域や多様な拠点が有機的にネットワークされた、コンパクトで一体感のあるまちの構造の形成をめざします。

■将来都市構造の形成方針

本町の将来都市構造は、次のような方針に基づいて形成を図ります。

【まちの拠点】
①　中心市街地をはじめ、魅力的で活力ある多様なまちの拠点を形成します。

市川地区中央部周辺の中心市街地は、都市機能の集約・強化と魅力の向上を図ります。また、市川地域や三珠地域、六郷地域の古くから地域の生活の中心となっているエリアは、生活サービス機能の強化や地域の特性を活かした魅力づくりを進め、個性と活力ある地域生活拠点の形成を図ります。

そのほか、豊かな自然や地域資源を活かした観光レクリエーション拠点や歴史文化拠点、町民の文化活動や交流活動を高める行政文化拠点、大塚工業団地の工業拠点、新たな産業活性化を図る六郷 IC 周辺の産業活性化交流拠点、町民・来訪者の交流を担うふるさと交流拠点など、多様な拠点の育成と相互の連携（ネットワーク）を図り、まち全体の活力を高めていきます。

【骨格道路網と主要な交流軸】
②　地域間や周辺都市との交流･連携を促す骨格的な道路交通網の強化と、多彩な交流軸を形成します。

中部横断自動車道山梨～静岡間の全線開通とリニア中央新幹線の開業を契機として、地域間や周辺都市との連携・交流を強化するとともに、主要な幹線道路の整備、JR 身延線の主要駅、六郷 IC 周辺の交通結節機能や公共交通との連携強化など、体系的な骨格道路交通網の機能を強化します。

また、道路交通体系の強化と併せて、周辺都市との連携・交流を担う「都市交流軸」、地域や周辺地域との交流を担う「地域連携軸」、中心市街地や地域の活性化・交流を担う「まちのにぎわい軸」、主要な観光交流の拠点を結ぶ「観光レクリエーション軸」、自然や景観の軸となる「骨格的な水と緑の軸」など、多彩な交流軸を形成します。

【土地利用エリア】
③　豊かな自然や美しい景観と調和し、コンパクトでバランスのとれた土地利用を形成します。

本町の地形構造や土地利用、生活圏域の特性から、コンパクトに集約化した市街地の形成を図る市街地エリア、田園環境と共生し良好な居住環境の形成を図る田園居住エリア、中山間地域の里山や農山村環境の維持・保全を図る里山エリア、御坂山地から派生する町域東部一帯の山地・森林エリアの大きく４つのエリアに区分し、エリア特性に応じた計画的な土地利用の推進を図り、豊かな自然や美しい景観と調和し、コンパクトでバランスのとれた土地利用を形成します。

(2)将来都市構造の設定

将来都市構造の形成方針に基づき、本町の将来都市構造を次のように設定します。

■将来都市構造の設定

まちの拠点

- **●中心市街地**　：主要な都市機能の集約･強化と魅力の向上によるまちの中心的な市街地拠点
  （市川地区中央部周辺）
- **●地域生活拠点**　：生活サービス機能の強化と地域特性を活かした身近な交流機能を担う拠点
  （三珠庁舎周辺、高田地区公民館周辺、大同地区公民館周辺、六郷庁舎周辺）
- **●行政文化拠点**　：行政機能が集約され、町民の文化活動や交流活動を高める拠点
  （市川三郷町本庁舎、青洲高校、生涯学習センター周辺）
- **●工業拠点**　：高速交通体系の充実を活かし、既存の工業団地の機能拡充と産業振興を担う拠点
  （大塚工業団地）
- **●産業活性化交流拠点**　：企業誘致や産業振興等により、地域活性化や広域交流に寄与する拠点
  （中部横断自動車道六郷 IC 周辺）
- **●ふるさと交流拠点**　：地場産業や特産物、温泉など固有の資源を活かし交流活性化を図る拠点
  （みたまの湯周辺、六郷 IC 周辺）
- **●観光レクリエーション拠点**　：レクリエーション機能の充実とまちの魅力の向上に資する拠点
  （県立四尾連湖自然公園、市川公園、大門碑林公園、歌舞伎文化公園、芦川渓谷、笛吹川多目的広場周辺、富士見ふれあいの森）
- **●歴史文化拠点**　：固有の歴史文化資源の維持･保全と交流･活性化に資する拠点
  （甲斐源氏旧跡、市川陣屋跡、大塚古墳など）

主要な交流軸

- **●まちのにぎわい軸**　：中心市街地や地域の活性化と町民･来訪者の交流を促す軸
  （中心市街地の役場前線や中央通り、上野地区や岩間地区の既存商店街通りなど）
- **●都市交流軸**　：広域的な都市間連携･交流を担い、都市活動の骨格となる軸
  （国道 140 号、主要地方道甲府市川三郷線、市川三郷富士川線など）
- **●主要な地域連携軸**　：地域や周辺地域との交流･連携を担う骨格軸
  （富士川町や身延町を結ぶ主要地方道市川三郷富士川線、市川三郷身延線、増穂ICを結ぶ富士川西部広域農道、六郷地域の新たなバイパス(構想)など）
- **●主要な観光レクリエーション軸**　：主要な拠点を結び町民･来訪者の交流を担う軸
  （県道四尾連湖公園線、金川曽根広域農道、主要地方道笛吹市川三郷線など）
- **●骨格的な水と緑の軸**　：自然や景観の骨格軸
  （笛吹川、富士川、芦川）

骨格道路網

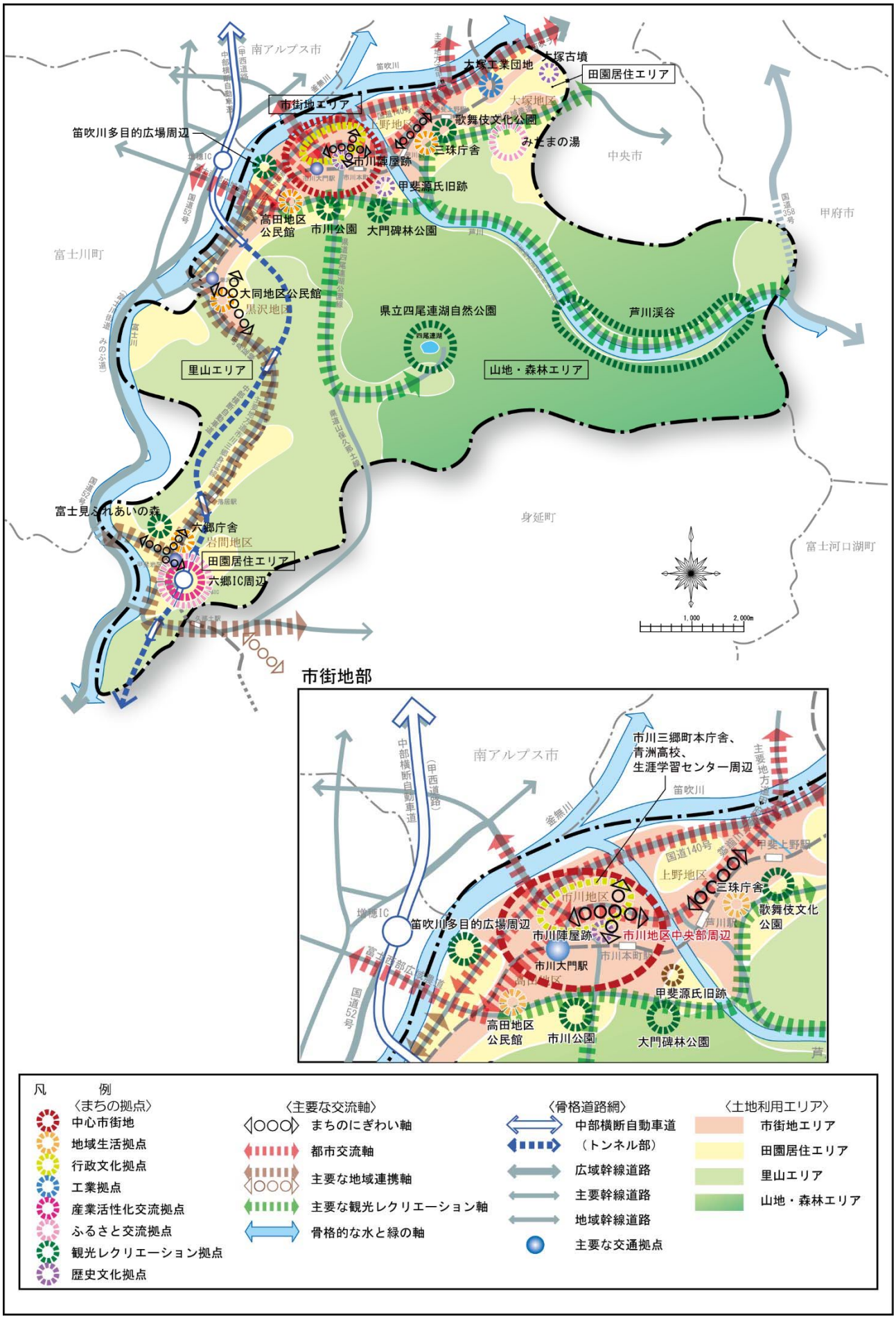
- **●広域幹線道路**
  （国道 140 号、中部横断自動車道）
- **●主要幹線道路**
  （主要地方道市川三郷富士川線、市川三郷身延線、六郷インター線、六郷地域の新たなバイパスなど）
- **●地域幹線道路**
  （主要地方道笛吹市川三郷線、県道四尾連湖公園線、山保久那土線、県道甲斐岩間(停)西島線、金川曽根広域農道など）
- **●主要な交通拠点**
  （JR 身延線の市川大門駅、鰍沢口駅、甲斐岩間駅、中部横断自動車道六郷 IC など）

土地利用エリア

- **●市街地エリア**　：コンパクトに集約化した計画的な市街地形成を図るべきエリア
  （市川地域の用途地域及びその周辺市街地）
- **●田園居住エリア**　：田園環境と共生した良好な居住環境の誘導を図るべきエリア
  （低地部の農地及び田園住宅地）
- **●里山エリア**　：山麓や山間の里山や自然環境と共生した農山村環境の維持･保全を図るべきエリア
  （里山と農山村を中心とした中山間地域）
- **●山地・森林エリア**　：豊かな自然環境･景観の保全と活用を促進すべきエリア
  （東部一帯の山地･森林地域）

注）都市計画区域マスタープランでは、市川地区中央部が「既存都市機能立地地区」に、上野地区と岩間地区が「地区拠点候補地」に、大塚工業団地が「産業拠点」に、六郷ＩＣ周辺が「産業拠点候補地」に位置づけられています。

■市川三郷町の将来都市構造



注）公共施設の配置については、「行財政改革推進計画」の進捗状況に応じて変わります。

・金川曽根広域農道から市街地方向を望む